

大觀  
亞細亞



金福鐵道線沿の史蹟(三)(關東州)

百三十六回  
十二輯ノ六

- 貔子窩の洞窟 ..... 一  
貔子窩財神廟 ..... 二  
三清廟牆壁の石額 ..... 三  
城服堡 ..... 四  
城歸服堡 ..... 五  
城子瞳の市街 ..... 六  
城子瞳埠頭 ..... 七  
塔子屯の石塔 ..... 八  
謝家屯の燈籠石 ..... 九  
謝家屯の砂磅層 ..... 一〇



日本戰史上より見たる金福鐵道沿線 三宅俊成

大連市山縣通一九三

發行所 亞細亞寫眞大觀社

電話(2)六二三五番  
振替大連七一八番

版權所有 不許複製

編輯人 大連市山縣通一九三

青 山 春 路

發行人 同 島 崎 役 治

發行所 亞細亞寫眞大觀社

(每月一回發行)

## 日本戦史上より見たる金福鐵道沿線

### 三宅俊成

此金福鐵道沿線は日本戦史の上から見て、興味深き地方である。此の地方の始めて日本戦史に現はれたのは支那側の所謂倭寇なるものであらう。而してこの地方に倭寇が襲來した記録の最も古いものは支那側の文献たる皇明實錄によれば洪武三十一年十月己巳(二十七日)金州に寇し新市に入り屯營糧餉を焼き軍士を殺掠したことが記ある。此の新市と云ふのは此の年より十七年前洪武十年(西紀一三八四)に金州城が新しく築かれたからであらう。これより以前に於て倭寇が山東を屢々寇してゐるから朝鮮より長年にわたり金福鐵道沿線に侵入するのであらう。此の新市と云ふのは此の年より十七年前洪武十年(西紀一三八四)に金州城が新しく築かれたからであらう。これより以前に於て倭寇が山東を屢々寇してゐるから朝鮮より長い間金福鐵道沿線に侵入するのである。此の新市と云ふのは此の年より十七年前洪武十年(西紀一三八四)に金州城が新しく築かれたからであらう。これより以前に於て倭寇が山東を屢々寇してゐるから朝鮮より長い間金福鐵道沿線に侵入するのである。

### 魏子窩洞窟の篇

魏子窩は魏子窩港の西端、龍頭山に在る洞窟である。昔此の洞窟に魏子窩と稱する猛獸が棲息せりと傳へ、魏子窩の地名これに因る云ふ。黄大仙等の日本滿洲には今正一位荷稻豐姬大明神及び胡仙存共榮、日満合体を具現してゐる。而して此の洞窟の風景は特に潮の時がよく小波が打ら戎免白帆をあげ往来する景が誠によく見ゆる。

(亞細亞大陸)十二編六回 NO.1



### 額石の壁牆廟清三

れかのらさもりあるはのあ  
る年考同のしるるが。其の長石額が。其の壁牆廟清三  
の不代へるも。此の石額には歸服堡と刻まれてある。其の大  
明ばるで兩に石質で石碑刻ある。其の額石は元、幅約  
が。此の額石が蓋し西城門門檻に接する。其の大  
明にはも年代を降らぬものと思はい。  
(印畫の複製を禁す)

(亞細亞大觀) 十二輯六回 NO. 3

### 廟神財窩子

廟神財窩子の説明文  
燒酒神は回族とも稱せられ豚を食はず、祭には  
境内に供へる風がある。同治四年及十年、道光二  
年の歴史と云ふ。又本廟は露治時代に一時撫民府が設けられた  
所である。云ふ。額石が蓋し西城門門檻に接する。其の大  
明にはも年代を降らぬものと思はい。  
(印畫の複製を禁す)

(亞細亞大觀) 十二輯六回 NO. 2





### 額石の壁牆廟清三

れかのらさもりあはのあ  
るら年考同のしるる長石るる子  
城。不代へ石でも。き額が子  
明はる質ある此約に。壁  
で兩にでらら云石十歸服其驛の北  
はは兩石う云石十歸服其驛の北  
は者者刻へ額五服壁北方數町  
あるとも同の額ばは額梗と元  
が石時字子元。額代が窩蓋幅刻額  
の多西し其約まれが處に三清廟  
明はるものに子門隣接する。其の  
額代が窩蓋幅刻額代められてゐる。  
(印畫の復製を禁ず)

(亞細亞大觀) 十二轉六回 NO. 3

### 廟神財窩子魏

魏子窩の財神廟は民政署の前に在り、財  
神廟は往時より沿岸戎克貿易港と  
の歴史がある。境内牛肉は回族を供へる風  
の年、光緒三十一年、同治四年及十年、道光二  
所又本廟を語る資料等の碑があり、中に魏子窩の町  
云ふ。露治時代に一時撫民府が設けられた  
(印畫の復製を禁ず)

(亞細亞大觀) 十二轉六回 NO. 2







### 歸服の堡内

寫眞は歸服堡城内にある民家であるが、魏子窩地方の村落には此の種の民家が多い。普平房と呼ばれ、屋根は平かで厚く土や漆喰で固められてある。秋口になる此の屋上に高梁の桿であんた直徑及高さ各々一米半位の圓筒状のものが、多數並べられて、其の中に刈り取られた玉蜀黍がうづたかく積み重ねられる物置場となる

(印畫の復製を禁す)

(亞細亞大觀) 十二輯六回 NO. 5

### 歸服

門は昔南との門は此の門には東青理由は明が以と同門には故ふさがなくある。この門は征伐した爲て高句麗が地せしめ共戰ひに破めれで此の門には門に在る。此の門は昔南とその門には東青理由は明が以と同門には故ふさがなくある。この門は征伐した爲て高句麗が地せしめ共戰ひに破められで此の門には門に在る。

歸

## 城子瞳の埠

城子瞳の埠頭は驛の東北、天台山の麓、復州  
隅子屯より發する碧流河の一支流に沿ひ、碧流  
河口を距る數里の處に在り。満潮時には優に三  
百石積の戎克船を多數容るゝに足る。併し從來  
此の水利を利用する者、僅に運送業者二、三に  
過ぎなかつたのが、大正八年の凶作後此の水運  
が大連、山東方面等一般的に知られ次第に利用

(亞細亞大觀) 十二輯六回 NO. 7

## 城子瞳の市街

城子瞳の市街は城子瞳驛の北方、碧流河の一  
支流に沿ふて在り。市街を形成するに至つたの  
は大正十年以來のことであり、大正八年此の地  
方の凶作が、多額の穀類輸入の戎克船の碧流河  
を利用する氣運を助成し、戎克貿易港となり、  
加ふるに昭和三年九月一日金福鐵道開通し、其  
の終点とし、水陸交通の機關全く完成し、州境  
の商業都市として繁榮するに至り、人口も三千  
餘に増加し、年々増加するばかりである。

(亞細亞大觀) 十二輯六回 NO. 6



を利用する氣運を助成し、戎克貿易港となり、加ふるに昭和三年九月一日金福鐵道開通し、其の終点とし、水陸交通の機關全く完成し、州境の商業都市として繁榮するに至り、人口も三千餘に増加し、年々増加するばかりである。



### 頭埠の墺子城

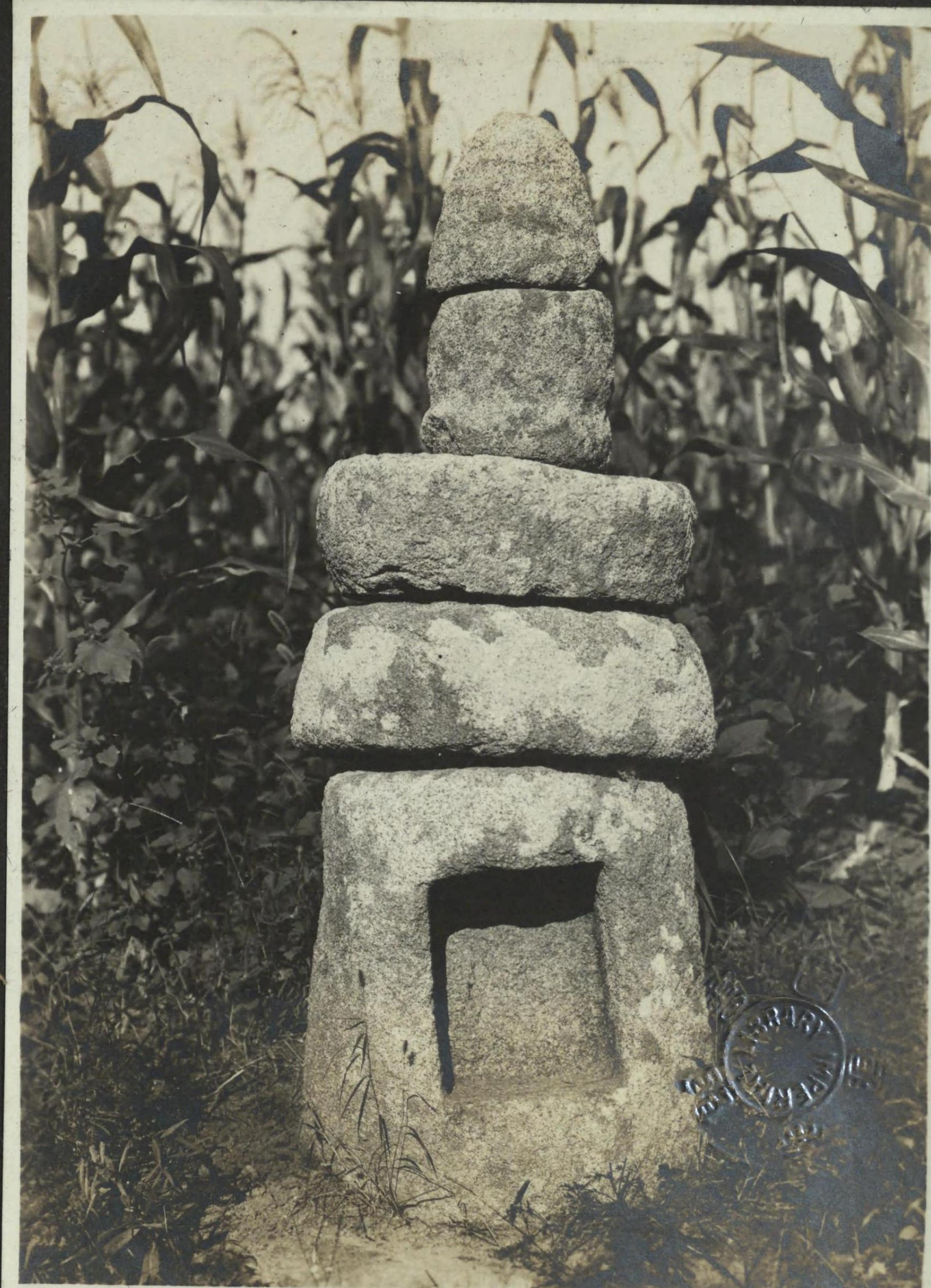
墺子墺の埠頭は驛の東北、天台山の麓、復州隅子屯より發する碧流河の一主流に沿ひ、碧流河口を距る數里の處に在り。滿潮時には優に三百石積の戎克船を多數容るゝに足る。併し從來此の水利を利用する者、僅に運送業者二、三に過ぎなかつたのが、大正八年の凶作後此の水運が大連、山東方面等一般的に知られ次第に利用されるに至り、昭和五年戎克繫留場たる小埠頭竣工し、今や州境唯一の戎克貿易港となり、州内外の物資の集散地となつてゐる。

(亞細亞大觀) 十二輯六回 NO. 7

### 塔子屯の石塔

塔子屯の石塔は城子瞳驛の東方約二十町の處に在り  
石塔は地上二、五ニメ、石質は片麻岩にして、  
土民の傳ふる處によれば昔突然地中より現はれたもので、塔子なる地名もこれに因る云ふ、  
此の形式の塔は州内唯一のもので、其の建立の年代は不明であるが、佛塔の一種ではあるまい  
(印畫の復製を禁ず)

(亞細亞大觀) 十二編六回 NO. 8



塔石の

たもので、塔子なる地名もこれに因る云ふ。  
此の形式の塔は州内唯一のもので、其の建立の  
年代は不明であるが、佛塔の一種ではあるまい  
か。（印畫の複製を禁ず）

（印畫の複製を禁ず）

（亞細亞大觀）



謝家屯の燈籠石

燈籠石は城子瞳驛の東約一里半碧流河の下流に在り巨岩が浸蝕にあひ、形狀稍々燈籠に似たる故に其の名がある。

滿々たる碧流河の水中に浮び、河岸には綠樹茂り、河か上下する真帆片帆の通ふあり、全く一幅の繪其のものである。

（印畫の複製を禁ず）

（亞細亞大觀）十二輯六回 NO. 9

### 謝家屯の礫層

謝家屯の燈籠石の附近、碧流河の河口に突出する岬の上層部に厚さ二米に近い礫層があるが、これは地質時代にこゝが河床であつたことを立証する貴重な資料、を供給するものであると共に現在の關東州の地殼が漸次隆起して居ることを証明するものである。

尙寫眞の遠くに見ゆる台地状の岬は大張家村廟後屯の貝塚であり、又その右方に見ゆるのは海湖寺で乾隆年間の古碑がある。

(印畫の複製を禁ず)

(亞細亞大觀) 十二輯六回 NO. 10



